

平成24年度補正予算審査

木村 俊子

〔質〕生活保護扶助費1億9千700万円を補正する要因と、医療費の適正化の取り組み状況は。

〔答〕被保護世帯数・世帯人員の増加に伴う入院・通院などの件数増加などによる医療費の適正化については、医療内容の調査や自立支援医療の徹底、後発医薬品の使用の促進などに努める。

山田 新一

〔質〕カルルス地区取水施設整備事業補助金について、平成17年から取水施設を整備し、生活用水に利用しているが、今後水が枯れることも考えられるので、早めに調査をして取水施設を整備することが必要ではないか。

〔答〕さまざまな観点から調査研究する。

沼田 一夫

〔質〕鷲別青少年会館の解体により、利用者から今後の利用場所についての声が寄せられている。今後の考え方は。

〔答〕利用団体や町内会からの存続要望が多いのは事実。鷲別小学校に会館機能を含め盛り込むなど、庁内や関係者、利用団体と協議しながら検討していく。

成田 昭浩

〔質〕市民活動センター管理委託料の債務負担行為について、指定期間、委託料の限度額、指定管理者のあり方や制度活用効果について。

〔答〕長期的視点で、人件費を含めた必要経費など適正に定めた。現状の運営管理費に比べ400万円ほど削減効果がある。

また、事業評価は報告書の提出やアンケート調査などにより検証したい。

平成23年度各会計決算審査

10月23日・24日・25日の3日間で審査を行いました



天神林 美彦

地方債の現在高推移をみると、年々改善されており減少傾向にある。

その一方で、経常収支比率の上昇とともに「債務負担行為」を増加し、「市の債務全体」を引き上げていくように思える。歳入が厳しい現状での「債務負担行為の乱用には注意が必要」と指摘した。

松山 哲男

〔質〕公共下水道事業費について、老朽化した雨水管きよ排水管きよの今後の改良更新事業の有無と取り組みは。

〔答〕雨水と排水の両管きよの改良更新計画については、下水道と土木の両グループで協議中であり、次年度以降に計画する。汚水管きよ改良工事は、年次的に取り組む。

山田 新一

〔質〕下水道供用区域の拡大について、生活状況改善と地域経済活性化のため、中登別地区の早期工事着手が必要ではないか。

〔答〕市の財政状況を慎重に考え、平成27年から28年以後の工事着手を予定しており、総工事費としては、10億円程度と試算している。

沼田 一夫

〔質〕姉妹都市等都市間交流協会補助金に関連し、トライアングル交流を行う神奈川県海老名市との姉妹都市締結の考えは。

〔答〕市民から「姉妹都市としての関係を構築すべき」との機運が高まった場合、議会の協力を得ながら進めていきたい。

佐藤 弘子

市内中学校配置のスクールカウンセラーの第三者性、外部性の確保の認識と、いじめ、不登校、暴力行為の発生状況や配置後の予防効果など、追跡調査の必要性を提案し、さらに拠点校方式ではなく、市内全小中高校への配置を要望した。

また、心の教室相談員の生徒指導への活用実態をたじた。

杉尾 直樹

今回の決算審査にあたり、ごみステーションの設置ルールや幌別東団地の空き部屋対策などの地域要望、消防サイレン整備や冬道安全対策など市民の安全にかかわる項目を質問し、さらには敬老会補助金関連や今後の陸上競技場における将来展望の提言などを行った。

二瓶 秀幸

学校給食事業特別会計の収入未済額、一般会計の災害時要援護者避難支援事業、野犬掃討・畜犬登録経費、高校生のための企業見学会経費など8事業を質問した。交流の森づくり事業費では、メガソーラー設置予定場所と重なっているため、市民開放を含め、交流の森の将来ビジョンをたじた。

工藤 俱二雄

衛生費の母と子の健康づくり事業費では、妊産婦の一般健康診査、マタニティ教室、離乳食を通しての食育やヘルシー講座、妊婦・新生児・乳幼児が対象の家庭訪問などについて質問した。そのほか、総務費・民生費・観光費などにおける事業が適切に行われているかを質問した。

辻 弘之

福祉避難所の開設を提案。現在の災害時要援護者避難支援制度は、避難誘導への取り組みが中心であり、避難所の体制整備については遅れている。高齢・妊婦・障がいのある方などに配慮した避難所の整備について、民間施設の協力を含めて検討すると答弁があった。

成田 昭浩

〔質〕市内各所で有害鳥獣による被害が増傾向にあるため、当市の被害状況や事業の実績、さらには今後の取り組みについて。

〔答〕特にエゾシカとアライグマが増加傾向にあり、被害も深刻であるため、人員や機材など、駆除体制を充実させたい。